

DADA

会報
創刊号!

DADAとしてスタートのおもいー

アフリカにはアフリカの知恵を
日本に日本の知恵が
まず生かされる環境を取り戻したい

DADAは「アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト」の英語名Dialogue and Action for Development Alternatives in Africa and Japanの略称です。

アフリカと日本の開発のための対話プロジェクトは、アフリカと日本の間に「対話」を作り出すプロジェクトとして、2001年にスタートしました。

私達はひとりひとりが自分の生活と未来のために自分の力で選択できる世界を目指し、過去に接点を持ち関わり続けてきたアフリカと、私達が生まれ、暮らす日本の地域開発を、対等な関係で一緒に考え、行動していきたいと決意しました。

グローバル化が進む中で、自らの責任に帰せられない様々な外からの影響を受け、それでも自分の責任におい

て地域の暮らしと未来のために努力している人たち、日々の暮らしの中から生まれてきた知恵や言葉を持ち、それを行動に移している人たち。私たちは、アフリカや日本にいるそのような人たちと繋がりたいと考えています。

とは言うものの、過去においてどれほど日本の私たちとアフリカの人々との関係が対等であったのでしょうか。こと国際協力の分野では、どうしても、「日本=先進国」の「技術」や「心構え」を「アフリカ=発展途上国」に「教える」という姿勢が絶えません。

相手を尊重する、一緒に考える、そんな当たり前のことが、時に失われてしまう、それが国際協力の多くの場面で起こっています。私達は、アフリカにおいても日本においても、一緒に考えていきたい行動したい相手と対等な関係であるかを常に問いかげながら、地球に生きる人々の自由、命、財産、権利などを奪うことなく自然のルールに耳を傾け活動していきたいと思っています。

なぜアフリカなのか？ジンバブウェなのか？

私たちはジンバブウェの南部マシングにあるNGO 'AZTREC' (The Association of Zimbabwean Traditional Environmental Conservationists Trust) と協力して、現地活動をしています。AZTRECは1985年にジンバブウェ独立のために闘った元ゲリラ兵士達、伝統的な首長、そして精霊と交信ができるスピリット・ミディアムの三者が中心となり、設立された団体です。目的は、市場主義による“農業”により疲弊した土地を回復させること、そして先祖代々伝わる知恵を整理し、自分達の土地にあった自然資源管理を行うことにあります。

私たちがジンバブウェ中部マシングのNGOや住民と一緒に活動を開始したのは、アフリカ日本協議会というNGOでの活動を通して、ジンバブウェのNGOとの関係が既にでき

ていたことが大きな理由です。対等な関係を築こうとするときに、まず誰と対等な関係を築くのか、思い浮かべる顔がすぐに浮かぶことが重要だと考えます。つぎに、その人たちに信頼されるには自分のどのような行動が必要なのか、相手に何を求めていくのか、そのためにはどのようにお互いが話して情報を共有していくのかという、具体的な行動を考えなくてはなりません。

人の顔が思い浮かぶ、この人たちと対等な関係を築きたいと思った、そのための行動を進めるコミュニケーションが取れる。それを全て満たすことができたのが、ジンバブウェのAZTRECとマシングに暮らす人々でした。

そこで、私たちはその第一歩をジンバブウェのマシングに記すことにしました。

活動のご案内

創刊第1号としてお届けする今回の会報では、現在進行している全てのプロジェクトについて、その概要をご紹介します。それぞれの詳しい進捗状況などは、今後発行される会報の中で少しずつお伝えしていきます。

活動方針

【相互自立】

お互いが自分の国と社会に責任を持つ。
そのとき初めて未来のための対話がうまれる
私達はそう考えます



ジンバブウェのソルガム

1. 生活を営む力をつけること

種の自給支援（ジンバブウェ）とめざせ、自給率1%！（日本）

ジンバブウェでは自給の要である種の自給に力を置いた支援をしています。ジンバブウェはイギリス植民地、ローデシア時代に作られた法律によって種を自家採取できる品種（Open Pollinated Variety：以下OPV）の種を農家が売買することが禁じられていました。そのため、主食であるメイズの種は表向きにはすべて一代品種のハイブリッドとなり、農家は毎年まいとし種を購入しなくてはなりません。DADAは、2002年のヨハネスブルグサミットで開かれたアフリカ農民集会の参加費を一部支援しましたが、その参加がきっかけとなり、自家栽培できる種の重要性を参加者が感じ、そうした種を持つ北部の農家と知り合ったことで

同年10月、種まき直前の時期に少量ですがOPVの種を購入することができました。DADAは今後もこうした支援をしてきます。具体的には、種の購入・種交換会・ワークショップ等の支援や穀物庫建設等を検討しています。

日本では、個々人がまず自分の生活の中で自給率アップを目指す活動を提案しています。家庭菜園、ベランダ菜園、大豆や麦のトラスト参加援農、市民農園を始めとして、自分の生活の中でどのくらい自給ができるか、その自給率をまずは1%にしよう！という運動です。（自給率マップ作成中。参加者集めます！）

2. 手にいれる力をつけること

地元からはじめる販路探し（ジンバブウェ）と地産地消（日本）



ジンバブウェでの“販路探し”ワークショップ

ジンバブウェでは、AZTRECの活動地域で生産されている作物の販路先を探すための聞き取り調査を、農民の人たちと一緒に実施しています。今後は近くの町への露天の出店や町の商人を招いた市の開催等も検討しています。また、JICA研修（南部アフリカ：畑作・野菜）で営農の分野の講義を担当。南部アフリカからの農業普及員を対象に同活動を紹介しています。こうした講義を担当することでも販路探しの内容をレベルアップしていきたいと考えています。

日本では、地産地消を勧める運動を展開中。できるだけ地元の商店から購入する。地元の作物を販売している店を探してそこから購入する。地元の作物が販売されている〈地産地消マップ〉を作成して情報を共有する等の活動を展開しています。

（地産地消マップ参加者募集中！）

3. アフリカをとりまく日本の環境を変えること

1. メディアウオッチ

アフリカについての新聞記事は、掲載されることが少ないだけでなく、その記事の視点が偏っていることにしばしば気づきます。＜フェアな視点の記事を増やす＞これがメディア・ウオッチの目的です。

具体的には、日本で報道されているアフリカ記事を集め（アフリカクリッピング）、その情報をアフリカの友人たちと共有。年間を通して集めた記事の中から「フェアな視点」を持つ記事を選び出して「アフリカ記事年間ベスト5・ワースト5」を選出します。

2. 勉強会、講演会

講演会は、引き続き開催・受け付けています。今年度もすでに総会を兼ねた自主講演会（調布市、4月）を開催しました。今年度中に2回目の自主講演会を予定しています。

10月には沖縄で開かれる国際協力フェスティバルに参加しました。また、他機関主催の講演会も、調布市西部公民館（6月）、パルク自由学校（9月）に講師として参加させてもらいました。（出張講演会も受け付けています！お問い合わせは事務局まで！）

3. 政策提言

政策提言は、市民の声を政策に結びつける重要な仕事です。昨年はTICAD IIIが開催され、DADAもACT2003に参加するなど具体的な活動が多かったのですが、今年度はODA政策協議やTICAD市民フォーラムなどの動きの情報収集を中心としています。NGO・JICA相互研修はプロジェクトの基本的な考え方を検討していく目的で9月中旬に開催されましたが、尾関がNGO側検討委員を務めました。

ジンバブウェ近況報告

代表の尾関が10月から12月にかけて、半年振りにジンバブウェを訪問。最新のジンバブウェ情報をお届けします。（情報は2004年11月30日現在のものです）

雨

第8回南部アフリカ気象予報フォーラム（The Eights Southern Africa Regional Climate Outlook Forum）が出した予報によると、今雨季は、ジンバブウェ北部は例年並あるいはそれ以上の雨が期待されるものの、南部は雨量が例年を下回る模様です。DADAが支援をしているAZTRECの活動地域は、あまり雨が期待できないということになります。ハラレ（北部よりに位置する）では10月最後の週に雨季が始まりましたが、中部のマシゴでは11月になっても雨がまったく降っていない状態です。

メイズ種まきの準備

全国各地で人びとは、種まきの準備に追われています。11月第一週になれば、全国的に雨季にはいる予定のため、種の買付や肥料・農薬の準備、そして耕起をはじめます。国道沿いでは、野焼きがあちこちで見られますし、大規模農場ではトラクターを使って耕している風景が目につきます。小規模な畑では、牛で鋤いた後、牛の糞を混ぜた肥料を小山にして畑のあちこちに積んでいるというジンバブウェの典型的な雨待ちの風景がいたるところで見られています。

種

今年は、種と肥料、そして農薬が値上がりして不足しているというニュースが頻りに流れています。どここの会社が種何トンを買ったという記事が毎日のように掲載されています。政府は南アフリカから輸入された種を購入することを検討しています。毎年まいとし種を買うことは農家にとってかなりの負担になっています。最近ではその現状にインフレが拍車をかけています。政府系農業トレーニング団体でも、今年になって、OPV（自家採取できる種）の種を栽培することを奨励したり、今年はより多くの土地をOPV栽培に当てるとの方針を打ち出ししたりしています。この不況が農家にとって大きな転換期になるかもしれません。

対外貨レート下落続く

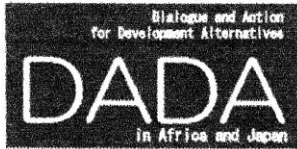
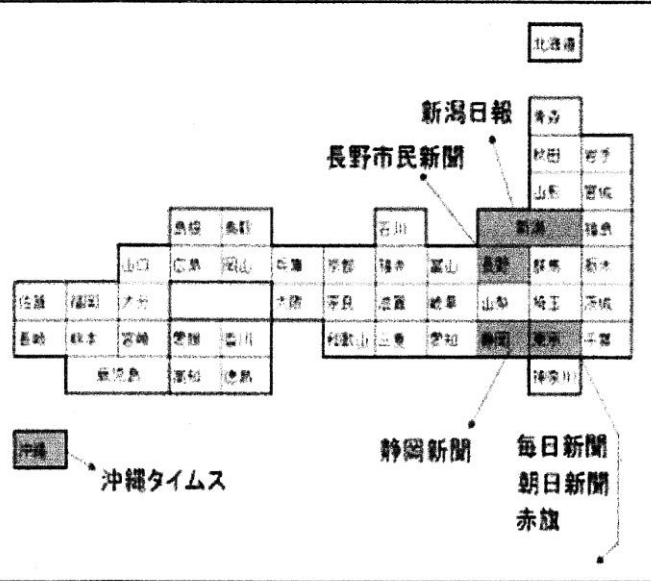
ハラレについて最初に驚いたのはインフレが止まっているどころかものすごいスピードで進んでいることでした。銀行における外貨交換レートは5月と今ではそれほど変わっていないのですが、闇値で物価が動いていると思われる値上がり幅です。例えば、牛乳500mlは3月には1500Zドルだったのが11月には2600Zドルに、パン1斤も1600→3600、新聞は1000→3500と値上がりし続けています。

募集！アフリカクリッパー

現在DADAでは、メディアウオッチプロジェクトに参加して下さるアフリカクリッパーを募集しています。

【アフリカクリッパーにお願いしたいこと】

- 新聞記事集めボランティア（多数！）
あなたがご家庭で購読している新聞のアフリカ関連記事が掲載されているページを切り取りDADAに送ってください。
- 新聞記事を月ごとにまとめ、翌月初めに郵送。（オリジナルでもコピーでも結構です）
- DADAがエクセルで作成したフォーマット（集計表）への記入。
- DADAに送って下さる送料もご負担いただけると助かります・・・。（なにせ資金がありませんので・・・）
- 参加ご希望の方は、ぜひDADA事務局
<YIU63627@nifty.com>（担当：廣内）までご連絡ください。



編集後記

- 日本で生きることがジンバブウェやアフリカの人とどう繋がっていくのか、なかなかアフリカの地に行けない身としては大きな課題です。（本）
- 英エコノミスト誌が発表した暮らしやすい国ランキングに世界最下位はジンバブウェという見出しが。でもよく読むと全111ヶ国中の111位。世界には国連加盟国だけで190ヶ国ありうちOECD加盟のいわゆる先進国と呼ばれる国が40ある。ジンバブウェは中間ってところ？でもあまりにも強引な「最下位決定」に英国の意図がうかがえました。（尾）
- 先日、友人が育てた野菜をいただきました。とっても美味しかった！厳密な意味での「自給」「地産地消」とは違いますが、身近な関係で食べ物をいただけるのって嬉しいですね。（佐）
- 海底に杭が打たれて、環境を破壊していない？だから、その足が破壊しているんだってばあ！from 辺野古（廣）

郵便物送付先：
182-0024
東京都調布市布田2-2-6
みさと屋
ボランティア・サポート・スペース内

電話：090-9485-5535（月・水）
090-2941-9280（火金）
FAX：0424-84-9810
Email：YIU63627@nifty.com

郵便振替
口座番号：00160-3-499558
口座名義：アフリカの開発のための対話プロジェクト
東京三菱銀行 品川駅前支店
口座番号：1348947
口座名義：アフリカの開発のための対話プロジェクト



1ページ目の答え《ジンバブウェはここです》

